

刑事訴訟法

次の【事例】を読み、下記の【設問】に答えなさい。解答用紙は、表面（30行）のみを使用すること。

【事例】

- 1 令和3年5月1日午後2時ころ、20歳前後の複数の者が鉄パイプや角材を所持して集まり、対立グループを襲う抗争事件（凶器準備集合罪および傷害罪。以下「本件犯行」という。）が発生した。本件犯行現場から直線距離で約4キロメートル離れた派出所に勤務していた司法巡査A及びBは、本件犯行が発生したとの無線情報を受け、犯人が逃走してくると思え、前記派出所前で警戒に当たっていた。すると、同日午後3時ころ、20歳前後に見える甲が、小雨の中で傘もささずに着衣を濡らし、泥で汚れた靴を履き、足早に派出所前の道路を歩いてくるのが見えた。Aが職務質問のため甲に停止するよう求めたところ、突然、甲が走って逃げ出したので、A及びBは前記派出所から約300メートル追跡して甲に追いつき、その際、同人が腕に剣道で用いる籠手をつけ、血の混じったつばを吐いており、その顔面には新しい傷跡があるのを認めたため、道路上において、①甲を本件犯行の犯人として刑事訴訟法212条2項に基づき逮捕した。
- 2 前記逮捕の際、Aは前記道路上で甲の腕から籠手を外して差し押さえようとしたが、車両の通行もあり、また、甲が興奮して暴れ、周りに見物人も集まってきたことから、A及びBは、甲を前記派出所に連行したうえ、逮捕から約10分後、②同派出所内で前記籠手を無令状で差し押さえた。

【設問】

- (1) 下線部①の逮捕の適法性を論じなさい。
- (2) 下線部②の差押えの適法性を論じなさい。

(80点)